幕末の通貨問題と万延元年遣米使節団



2022年1月 堀早百合

1. 先祖 森田岡太郎清行について

・幕府勘定所※勘定組頭として、遣米使節では三使(正使・副使・監察)に次ぐ立場

・昌平坂学問所での学問吟味甲科(甲乙丙の甲)及第をきっかけに、学問所勤番→代官→勘定組頭へ。 御家人から旗本になった『叩き上げ』

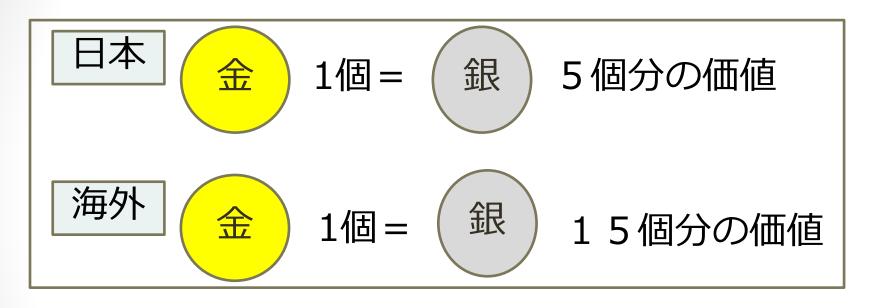
・漢詩集『航米雑詩』を刊行、帰国翌年に50歳で病死

※幕府勘定所・・・公事方(法務)、勘定方 (財務)から構成。幕府の最重要機関ゆえに 実力主義の昇進システムが採用された (藤田覚『勘定奉行の江戸時代』)



2. 幕末の通貨問題とは

▶幕末の金流出についての一般論



【教科書等に記載の一般論】

日本では金銀比価(金の銀に対する価値)が海外より低かったために、金が安く買われ、海外へ流出した。 →長年鎖国していたため、幕府は無知で防げなかった

3. 当時の貨幣制度

『天保一分銀』

→本来1枚分の銀だが、幕府の極印により、 <u>重さの3倍の価値</u>を持たせていた貨幣





【背景】

本位貨幣:海外

銀

日本



一分銀は金貨の1/4の価値と決められた、金貨の補助貨幣かつ、平和が続いた江戸幕府の信用を背景とした信用貨幣(今でいう紙幣)



1両=



一分銀4枚※

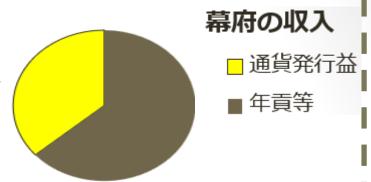
※当時の貨幣制度は四進法(1両=4分=8朱)

4. 一分銀を発行していた理由

幕末の財政:

一分銀の**通貨発行益**が

歳入の約4割



ー分銀の額面

通貨発行益

原価(銀)

↑一分銀イメージ

一分銀1枚につき2枚分の通貨発行

益※を得ていた

⇒発行すればするだけ儲かった

※元禄時代の勘定奉行荻原重秀が財政補てんのために「幕府が発行すれば瓦礫でも貨幣だ」と始めて以降、幕府は江戸時代7度に渡って、経済財政状況に合わせて貨幣改鋳(貨幣の金銀の含有量・重量を変更すること。改鋳後、新旧貨幣は両替商を通じて交換された)を実施。国家の信用が貨幣価値の裏付けとなる管理通貨制度になっていた

5. 通貨交換比率決定の経緯

- ①ペリーによる日米和親条約



※秤量貨幣とは・・



60匁

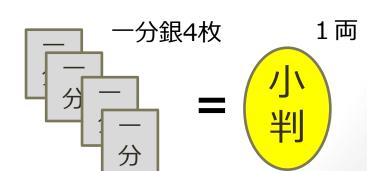


=



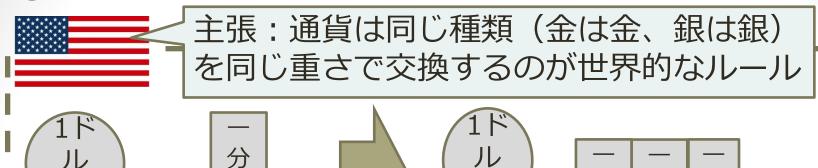
1両

量って通用させる貨幣。 通用銀60匁で小判1両と等価と された。対して一分銀は4枚で1 両と等価とされた計数貨幣



6

②ハリスによる日米修好通商条約



銀



銀

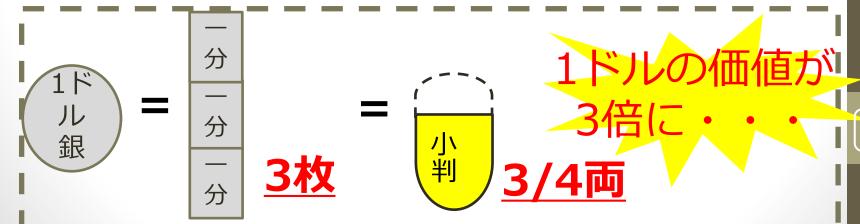


分

分

分

⇒「そんなことをすれば贋金が横行するはずだ」と認められず・・



7

3幕府の対策



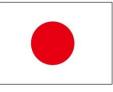
『安政二朱銀』の発行



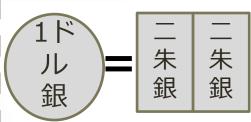
銀

銀

2枚で1ドルと重さが釣り 合う(銀と銀を同じ重さで 交換できる)



の主張



2枚 = (4朱)



(1分)





「ドルの価値を1/3にしようとする策略」と 受入れず・

6. 金流出の原因

⇒外国商人によるマネーゲーム

洋銀 4 枚 天保一分銀 12 枚 天保小判 3 枚 洋銀 12 枚

ドルを日本で一分銀→小判に換えて、 海外でドルに換えると **元手が3倍に増える**



国内(貿易港)では・・ ⇒日本の物が**1/3の値段**で買われ、 海外の物を**3倍の値段**で買わなければならない事態に

7. 金流出の原因②



金流出の原因は、海外に比べて日本の 金銀比価(金の銀に対する価値)が低 いことが原因。⇒金の価値を上げたら いいのでは?

←アメリカ公使ハリス(自身も一分銀による為替差益 を利用し蓄財していた)

日本は金貨を基に貨幣制度を建てている。

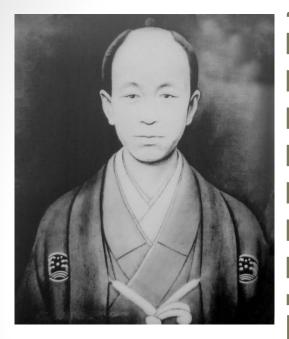
金の価値を上げれば、その分 物価が上がり国内で混乱をもたら す為できない



↑外国奉行 水野忠徳

外国公使団の忌避に合い、水野は左遷されてしまう・・ (佐藤雅美『大君の通貨』)

8. ワシントンでの交渉



■①条約批准書交換後、半月にわ たって、監察小栗忠順を中心に アメリカ政府側と通貨交渉をし ていた詳細な記録

1②アメリカ政府からの回答

公式な記録ではなく森田の 手控としての記録に・・

森田岡太郎清行『無題手控』

(『遣米使節史料集成』1巻P278~)



森田の記録を元に・・

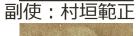
佐藤雅美『覚悟の人~小栗上野介伝~』



交渉に至る経緯

正使:新見正興





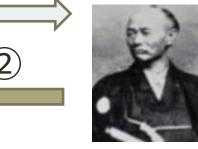
三使



監察:小栗忠順







①条約批准書交換前日(小栗⇒森田)

三使の部屋へ呼ばれた森田は、小栗からアメリカ政府と通貨交渉を考え ていることを打ち明けられる。通貨問題の事情を知らない森田は、幕府 の正式任務でないことを理由に反対。副使村垣から「あらゆる席に同席 する」という自らの発言との矛盾を指摘され、交渉立ち会いに同意する

②条約批准書交換当日(森田⇒小栗)

一晩考えたが釈然としない森田は、三使の部屋へ再度訪れる。交渉の 結果却って日本側に不都合な結果となるのではと懸念する森田に対し、 小栗は「私の一存でするため立ち会わなくて結構」としびれを切らす。 訪米の際に通貨交渉できないか、若年寄・老中から小栗・新見へ話が あったことを聞き、事態を知った森田は立ち会いを了承する

10. アメリカ政府との交渉

- ①条約批准書交換後、小栗からアメリカ政府(カス国務長官)へ通貨についての交渉を申し入れる
- ②フィラデルフィア造幣局へ、分析のため日本の貨幣を送る _____





分析した貨幣

一分判: 小判の 1/4の価値の<u>金貨</u>



二朱銀:

貿易のために 作った銀貨

③②の分析結果を元にアメリカ政府(カス務長官)と

交渉

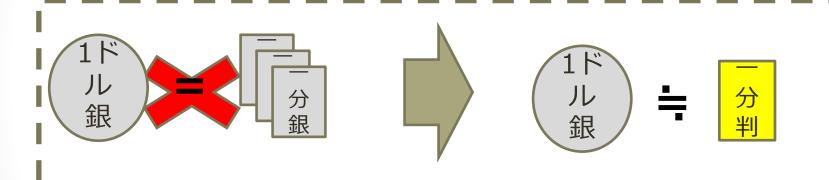


一分銀は楮幣(ちょへい=紙幣のような通貨)

⇒ワシントン出発が目前となるが回答出ず・・

11. 小栗から書簡による申入れ

①フィラデルフィアの分析結果を元に、 日本政府は一分判を90セントの定価で外国の 金銀貨幣と交換する



②(海外と金銀比価を合わせた)新銀貨を作るまでは、一分銀は日本人だけに通用する楮幣とし、日本政府は一分銀を外国銀貨と引替えない

12. アメリカ政府の回答

- ①条約上、通貨の同種同量交換が基本
- ②正しい金貨を不正な貨幣と同量で交換しては ならない
- ③貨幣の価値を政府の極印で定めてはならない
- ④金銀のつり合いを正確に把握して両国貨幣を 交換すれば問題ない

⇒論点を逸らされ、小栗の主張は<u>認められず</u>

佐藤雅美氏:「②は当然のことであり、③は内政干渉に近い。 小栗の主張を認めれば、アメリカが日本の国益を大いに害したこ とを認めることとなり、下手をすると賠償金支払いという問題が 生じるため、無視された」

13. フィラデルフィア造幣局へ

①真の目的における決着は既についていた

通貨を分析したところで、一分銀の実際の価値は額面の1/3 に過ぎない。一分銀は紙幣のような貨幣だという主張がアメ リカ政府に認められなかった以上、意味をなさない

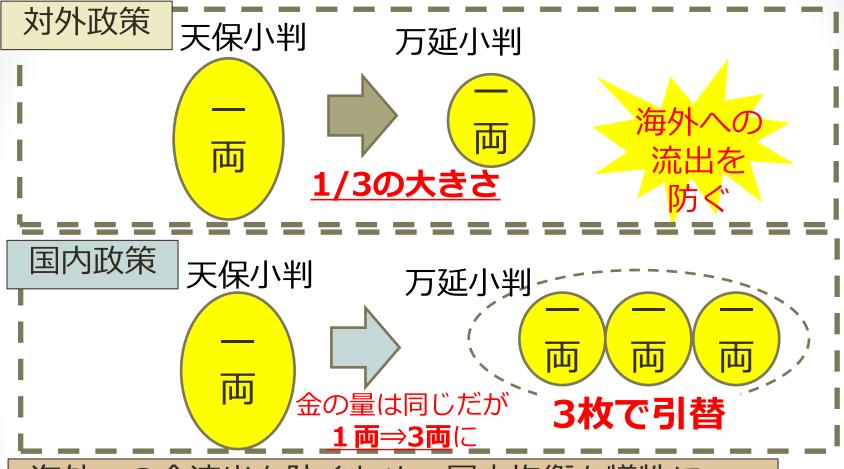
斯くのごとく<mark>卑価の貨幣</mark>※を以てわが諸海門(貿易港)に於いて物品を買はるるときは其の損甚だしく、久しからずして庶民の疲労を致すべし

※卑価の貨幣⇒価値の低い貨幣、一分銀のこと (一分銀の実際の価値は額面の1/3しかないため) 1ドル=1分銀3枚の交換比率により、日本の物が1/3で買われ、外国からは3倍の値段で買わなければならない貿易上の不利益を嘆いた。

②森田は、佐野鼎に語って慨嘆した (佐野鼎『訪米日記』より)

↑佐野鼎 (現 開成学園の創設者)

14. 万延の改鋳① 遣米使節団の出発後、実施された



海外への金流出を防ぐため、国内均衡を犠牲に・・

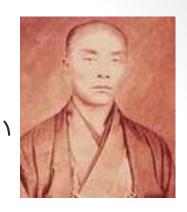
⇒通貨供給量が3倍になり、<u>物価は3倍</u>に

物価高騰の影響を最も受けるのは、価格転嫁の手段をもたない 俸給生活者の武士や、商人でない町人⇒不満が倒幕勢力に繋がる 17

15. 万延の改鋳②

『三井中興の祖』三野村利左衛門

⇒天保小判を集め一晩で巨利を得る 小栗と深い繋がりがあり、小栗亡き後その想いを継い で三井銀行を設立。小栗の死後、小栗の妻子を養い、 最後まで恩を忘れなかった



『万延二分金』の誕生

- ・通貨発行益を目的とした信用貨幣
- ・銀が7割の『銀製の金貨』





大量発行による<u>ハイパーインフレ</u>

勘定奉行となった小栗が、幕末の財政難を賄うために手を尽くすも叶わず、横須賀造船所設立もあり大量発行に至った(通称『小栗二分金』)

⇒発行量の圧倒的多さ・"悪貨は良貨を駆逐する"『グレシャムの法則』から、万延二分金が**主流通貨**となる

幕府崩壊後、通貨制度は更なる混乱へ・・

16. 両から円へ

小栗忠順と『円』を創った男 大隈重信



夫婦



綾子

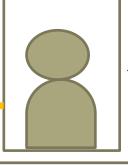
幼い頃兄と小栗邸 で同居

横須賀製鉄所を フランスから接収

三野村の死後引き取り、小栗家再興に尽力



いとこ



小栗の遺児:

国子

親子

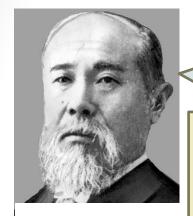
横須賀製鉄所を設立

幕府の運命に限りはあるとも、日本の 運命に限りはない

17. 『円』の誕生

・当初は銀本位制を想定するも・・





伊藤博文

これから世界列強は 金本位制が主流となる

金での交換比率の方がキリがよく、二分金が基準となり 国民に受け入れやすいのでは



渋沢栄一

円の交換比率



=





↓主流通貨



外国との交換

国内での交換

18. 終わりに

> 通貨の未来





紙幣



デジタル通貨





- > お金とは何か
- ・お金の形は時代を超えて変わる
- ・お金とは「手段」=価値尺度・価値交換・価値保蔵

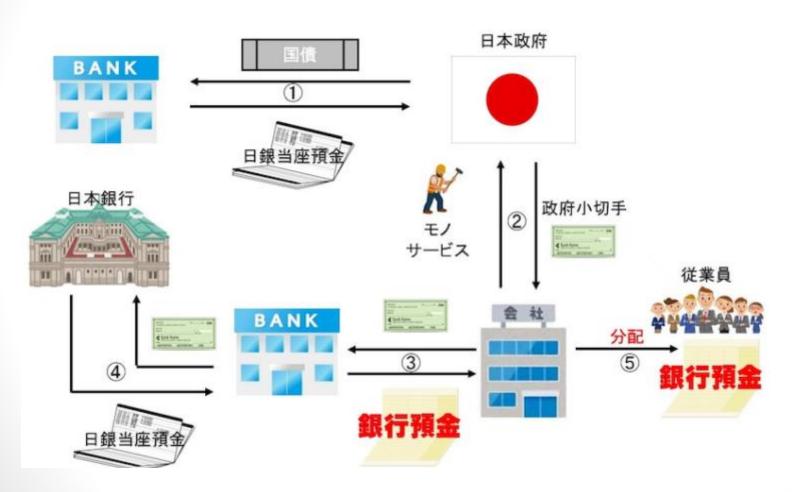
【おまけ】徳川埋蔵金はあるのか?

答え・・埋蔵金はありません。

徳川埋蔵金とは・・江戸城無血開城時に金蔵が空だったことから、勘定奉行を歴任し主戦派だった小栗忠順が、幕府の御用金を持って逃げたと薩長軍が吹聴したことによる(小栗を斬首したことを正当化する目的もあったのでは)。幕末、財政難に一番苦しめられた当事者である小栗忠順ですので、そんなお金があったら使ってますよね。

(参考) 現代のお金の発行の仕組み①

➤ 国債(政府の借金)が起点となっている



(参考) 現代のお金の発行の仕組み②

日銀のバランスシート

↓国債=資産

→お金(日銀当座預金 · 日本銀行券(お札※)) = 負債



国債(540%円)

当座預金

(494兆円)

銀行の バランスシート

> **資産** (国債・ 日銀当座

負債(預金)

資本



(国復・ 日銀当座 預金・融 資)





貸付金 (116%円)

円)

政府預金(65兆円)

発行銀行券

(116兆円)

ETF (36%円)

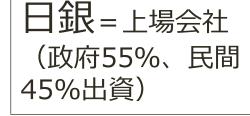
その他預金 (25%円)

※硬貨は財務省発行の補助貨幣。法律上は 20枚までを法貨として適用とされている

(参考)政府と日銀の関係

政府

国債利息 →政府の支払い





益※ →国庫へ 納付 =政府の 収入

日銀の利



※日銀の利益=国債の受取利息(通 貨発行益)ー費用

・日銀と政府の利益は相反する (金利低下=政府の支出は減る が、日銀の収入減となり国庫納 付が減る

金利上昇 = 政府の支出は増えるが、日銀の収入増となり国庫納付は増える)

疑問:そもそも中央銀行は利益を上げる必要性あるのか?通貨の信用は中央銀行の利益に左右されるものではないのでは。

(参考)江戸時代と現代の比較

【江戸時代】

通貨発行権

→政府(幕府)









使うことで民間へ

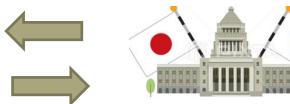
政府(幕府)が発行して

【現代】

通貨発行権 →日銀











納稅



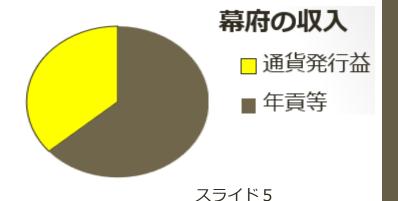
(参考) 江戸時代と現代の比較②

【江戸時代】

幕府の財政:

一分銀の通貨発行益が

歳入の約4割

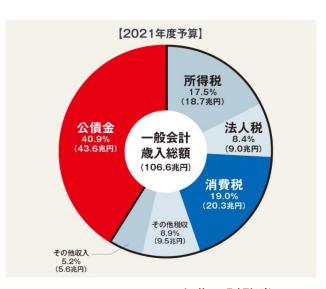


【現代】

政府の財政: 公債金が歳入の**約4割**

疑問:国債は国の借金?

国民の負債?



出典:財務省HP